

令和4年第3回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和4年3月23日(水)
午後2時～午後4時20分
2. 開催場所 柏原市教育委員会室
3. 出席した委員
教 育 長 新 子 寿 一
教 育 長 職 務 代 理 山 崎 裕 行
委 員 田 中 保 和
委 員 近 藤 温 子
委 員 西 村 弥 生 子
4. 出席した職員
教 育 部 長 福 島 潔
教 育 監 中 平 好 美
次 長 兼 指 導 課 長 石 田 智
学 務 課 長 井 原 啓 裕
教 育 総 務 課 長 栗 田 聖 子
教 育 総 務 課 課 長 補 佐 井 上 敦
5. 議事案件

議案第3号 第2期柏原市教育振興基本計画について

議案第4号 令和3年度中学生チャレンジテスト(1、2年生)の結果の公表内容について

議案第5号 令和3年度かしわらっ子はぐくみテストの結果の公表内容について
6. 報告事項
7. 会議録の承認及び会議の要旨
新子教育長： 定刻となりましたので、令和4年第3回定例教育委員会会議を開会いたします。本日の会議録署名委員は近藤委員です。よろしくお願ひします。次に、事前に送付さ

せていただいております会議録につきまして、ご意見等ございませんか。

委員全員： なし。

新子教育長： 会議録は承認することといたします。それでは、本日の議事に入ってまいります。本日は議案が3件ございます。ご審議ご決定よろしく願いいたします。それでは、議案第3号について、中平教育監より説明をお願いします。

中平教育監： 「第2期柏原市教育振興基本計画」の策定に当たりましては、前回、2月定例会の「報告事項」におきまして、策定趣旨や計画期間、概要についてご説明申し上げ、ご意見を頂戴したのち、事前にお配りしておりました計画案について、本日、ご審議いただくこととしております。なお、2月28日から3月11日まで実施いたしましたパブリックコメントは1件ございました。

それでは、今回、委員の皆様よりご意見をいただき、見直しを行った主な内容について、ご説明申し上げます。まずは、本基本計画の位置づけでございます。1ページ下をご覧ください。「かしわらっ子はぐくみプランー柏原市学力向上計画ー」との連携について記載しておりますが、「3か年計画」という年限はつけずに記載することといたしました。

この度の策定では柏原市立学校園に通う子どもをお持ちの保護者の中から抽出で、アンケートを実施しております。11ページをご覧ください。アンケートを活用すべく、上から3行目に、「本アンケートの結果から見える保護者のご意見や願いは、これからの柏原市の教育施策に生かしていく」ことを記載いたしました。なお、各回答の集計結果は降順でお示しをしております。25ページの基本方針1でございます。(1) 幼小中一貫教育の充実の現状と課題につきましては、幼小中連続の見取りを知るためのデータを最新にいたしました。(2) 確かな学力の育成では、29ページで「かしわらっ子の学びを支える授業づくりモデル」をお示しするとともに、図左下には、「児童・生徒に分かる授業を行う」ことを記載しております。(3) 豊かな心の育成では、33ページの【道徳教育の充実】3つ目<学校の教育活動全体を通じた取組み>において、「情報モラル教育」についての追加をいたしております。その他、ご意見のありました文言等の修正を行い、フォントや行の見直したものをお送りさせていただきました。よろしくご審議賜りますよう、お願い申し上げます。

新子教育長： 今第2期の教育振興基本計画について、説明がありました。まだ案でございますけれどもここでご承認いただけたら、次の総合教育会議で、市長の方から大綱として位置づけていただくという事になります。ご意見等ございましたらお願いいたします。

田中委員： 前回ご説明があつて、いろいろな資料を提出していただいて、本当にわかりやすくできていると思います。この形で進めていただけたらなと思います。一点、先ほど言われたパブリックコメントでご意見が出てきているというのはどういった内容ですか。

中平教育監： 同じ方から三つご意見をいただいております。やはりSNS等の情報過多の時代に情報リテラシーを高める教育。ここの部分が一点。もうひとつは親と子供の繋がる教育といえますか、子供の親として子供たちに自分たちが持っている知識を共有させたいのだというような、そういったご意見ですね。ここは学校、保護者と地域が連携して社会全体で子供を育てる環境づくりを推進しますと、それはもう基本計画の通りです。あと

もう一つはやはりスクールカウンセラーのことについて触れておられました。やはりいろいろと子供たちの精神的な安定を保ってほしいと、こういったご意見がございました。

新子教育長： いただいたご意見はいずれもこの計画に組み込んでございますので。他にご意見等ございますでしょうか。

委員全員： なし。

新子教育長： それでは、議案第3号については、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： それでは、議案第3号第2期柏原市教育振興基本計画については原案どおり承認することといたします。つづきまして、議案第4号について指導課石田次長より説明をお願いします。

石田次長： 議案第4号「令和3年度中学生チャレンジテスト（1、2年生）の結果の公表内容について」指導課よりご説明申し上げます。別添の冊子をご覧ください。それでは前から順番に結果の説明に移らせていただきます。まず表紙をめくっていただき、1ページの調査目的についてはこれまでと変わっておりません。教科につきましては、1年生は3教科、2年生は5教科実施されたのですが、社会科と理科はAB問題の選択制となっておりますので、この後にお示しする結果については、その両方の平均正答率を足して2で割った数値にしていることをご承知おき願います。

それでは各教科の結果に入っております。まず2ページは1年生国語になります。平均正答率は大阪府をやや下回っております。過去3年間の1年生と比べますと、最も良くない結果でした。「情報の取扱い方に関する事項」の領域は大阪府を上回りましたが、「思考力・判断力・表現力等」の領域において全ての区分で大阪府を下回っております。得点別分布を見ますと、85点から94点の割合は高い一方で、40点以下の割合も大阪府より高いことがわかります。3ページの課題の見られた問題は、「役不足」という言葉の意味についての調査データから読み取ったことを50字以内の文章にするというもので、資料の内容を的確に捉え、限られた字数に要約する力が求められ、日常の授業においても同様の活動を積み上げる必要があると思われまます。

4ページは数学になります。平均正答率は大阪府を3.4%下回り、3科目でもっとも大阪府との乖離が見られます。過去3年間の1年生と比べますと、国語と同じく最も良くない結果でした。分類別に見ても全て大阪府を下回っております。一点訂正がございます。真ん中右側の「特徴的な傾向」の一つ目の○に「得点別分布では90点～100点までの区分において、大阪府より多い傾向である」とありますが、こちらは間違いですので、削除いたします。得点別分布からは、35点以下の割合が高いことが見てとれます。

飛んで6ページは英語になります。平均正答率は大阪府を2.1%下回っています。過去3年間の1年生と比べますと、昨年度は大阪府を上回っていたのですが、本年度は下降し、過去3年で最も良くない結果でありました。グラフを見ますと3教科ともに同様の傾向であることがわかります。分類別に見ても全て大阪府を下回っておりますが、「聞くこと」や「記述式」の区分は僅差であることがわかります。また訂正がございます。真ん中右側の「特徴的な傾向」の一つ目の○に「得点別分布では70点以上の層が大阪府以上の割合で

ある」とありますが、こちら間違いですので、削除いたします。得点別分布からは、65点以上の割合が低く、英語を得意としている生徒が少ないことが見てとれます。

飛んで8、9ページはアンケート結果になります。問1や問3の「当てはまる」の回答は大阪府を超えている一方で、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的回答については、全体的に大阪府よりやや低い傾向が見えます。その中で、9ページ問8からは、携帯電話やスマートフォンを持っていない割合は大阪府より高いことが分かります。また普段3時間以上使っている割合が高いが、2時間以上という基準で見れば大阪府より低いということも見て取れます。

10ページからは2年生になります。まず国語ですが、平均正答率は大阪府を2.5%上回り、同一生徒集団の経年比較で見ましても昨年度より伸びていることが分かります。得点別分布で見ましても、85点以上の割合が大阪府に比べて高いことがわかります。11ページの課題の見られた問題は、「知識」について書かれた文を要約したものに設けられた空欄に適する文字数の語を書くというものですが、文の全体を的確にとらえていないと正しい答えが導き出せないような問題になっています。授業においてもポイントを踏まえて要約することや、キーワードとなる語を掴む練習などが必要だと思われます。

12ページは社会Aになります。平均正答率は大阪府を4.3%下回っており、今回の調査で最も課題が見られました。区分で見ましても、全て大阪府を下回っています。得点別分布からは39点以下の割合が高く、反対に60点以上の割合が低いことが見てとれます。13ページは社会Bになります。A問題と反対に、平均正答率は大阪府を5.5%上回り、今回の調査で最も大阪府を上回る教科でした。区分で見ても全て大阪府を上回っており、特に「短答式」「記述式」の問題形式においては大阪府より7%の差が見えます。得点別分布もA問題とは反対に、低得点層の割合が低く、高得点層の割合が高いことが分かります。飛んで15ページは数学になります。平均正答率は大阪府を1.8%上回り、全ての区分でも同様に上回っています。特に「記述式」問題形式において、大阪府との差が見えます。同一生徒集団で経年比較では、昨年度とほぼ同じ傾向であります。

飛んで17ページは理科Aになります。平均正答率は大阪府を3%上回り、全ての区分でも同様に上回っています。特に「短答式」「記述式」の問題形式においては大阪府との差が見えます。得点別分布からは、34点以下の割合が少なく、中間層が厚い傾向が見えます。18ページは理科Bになります。平均正答率は大阪府を1.3%上回り、「記述式」の問題形式において特に大阪府より高い傾向が見えます。19ページの課題の見られた問題は、木片という有機物を燃焼させると質量が小さくなることについて、語群から2つの語を選び30字以内で答えるというもので、この問題に正答するには、用語を暗記するのではなく、現象等について用語を用いて説明するような活動を授業の中で積み上げていくことが重要だと思われます。

20ページは英語になります。平均正答率は大阪府をわずかに下回りましたが、「聞くこと」と「思考・判断・表現」の区分は大阪府を上回っております。同一生徒集団で経年比較しますと、やや下降が見られます。得点別分布からは、65点以上の割合が明らかに少なく、1年生と同じ傾向が見てとれます。21ページの課題の見られた問題では、メモに

書かれた日本語を基に英語のスピーチの原稿を（ ）に指定する語数の英語で書くというものです。正答率が18.3%と低いですが、書かなければならないのは「走ることは楽しかった」の英訳である running was fun だけであるため、そう難しいものではないと思われます。英文の大意を読み取る力、それと基本的な英文を書く力に課題があると思われる、日本語の文を読みキーワードを英語で表すなど、段階を追って日本語で言いたいことを既習の英単語で表現するような練習が必要だと思われます。

22、23ページはアンケート結果になります。各問に対する肯定的回答は全体的に大阪府、また1年生と比べても高いことが分かります。23ページの間8からは、1年生と同様に携帯電話やスマートフォンを持っていない割合は高いが、普段3時間以上使っている割合は高いことが見て取れます。24ページからは、今後の教育委員会と学校の取組み、そして各家庭にお願いすることという点についてまとめております。基本的に3年生のチャレンジテストと同様の課題も見られましたので、それを踏襲するような形でまとめております。「教育委員会としての取組み」の一つ目の・の「当事者意識」は当然ですので、「主体性」に変更します。また類似した4つ目と5つ目の・をひとつにし、「優れた実践をしている教員による研修や公開授業を実施するなど、経験の浅い教員にも高い指導技術が習得できる機会を設定する」に変更いたします。また、「学校における今後の取組み」の一つ目の・については、「指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を活用して、子どもたちにとっての『分かる授業づくり』を進める」に変更いたします。説明は以上でございます。ご審議よろしくお願いいたします。

新子教育長： はい。令和3年度の1、2年生のチャレンジテストの結果でございます。相対的に1年生が厳しい内容であると。逆に2年生の方は1年生の時も良かったのですけれども、やや教科にもよりますが、良い傾向にあるというところと、アンケートの結果でございますね。1年生に見られるのはちょっと授業が分かりづらいというふうなアンケート内容もあって、学校の授業づくり、そういったところも今後の課題であろうかと思うのですが、ご意見等ございましたらお願いいたします。

山崎委員： この前次長のお話で指導主事の先生が学校の授業研にたくさん行ってきているという話だったので、いいなと思って、学校が良くなるなと思ってお話を聞いておりました。いつもこのアンケートは調査の設問というのは同じなのですが、問1授業中ノートやプリントに自分の考えを書く場面があるか。問2は授業中、自分の考えや意見を伝える場面があるか。問3が授業中話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている。話し合いの活動があって、考えを深める、広げるということをしているかどうか。この三つ、柏原市も大阪府も結果の数字は大して大きな違いはないと思います。毎回ね、同じ設問であんまり変わらないなと思って見ておりました。しかし授業中ね、この三つは本当は「当てはまる」というところに子供たちにたくさん「当てはまります」というのをつけてほしい中身ではありますね。そういう授業がつくられたらなど。先ほど教育長も中1の子供が授業が分かりにくいというお話がありましたが、やっぱり授業が分かるという、

そういう問1から問3にあったような中身のことを子供たちが「当てはまってるよ」って言えるような授業をつくっていくことが大事だろうと思います。

そこでちょっとお話させてもらいたいのですが。授業のやり方として、先生が一つ発問をしたら1人の子供が発言をする。そうすると次の子もまた挙手をして、「A君と同じだけれども私はこう考えます」。するとまた次の子が手を挙げて「僕はAくんとは違いますが、僕はこういう意見です」。するとまた次の子が手を挙げて、「いやBさんに付け加えて、私はこう考えます」。また次の子が手を挙げて「AくんやBさんとは視点を変えて、私はこう思います」。というように、子供たちが考えて発表して、そして友達の見解で自分の考えを深めたり広げたりするこういう子供たちの発表が次々に繋がっていくような、こういう授業をできたら追求してもらいたいなど。

先生が一つ発問をして子供が一つ答える。そうするともう先生は次に行ってしまうので次の発問をしている、また一つ子供が答えてまた一つ先生が発問して次々と授業は進めていくのだけでも、子供たちが先生の練りに練った発問に対して、みんなが一生懸命考えて、自分の考えをノートに考えてまとめたり、いろんな活動もしながら、自分の考えをまとめて発表して、その一つの発問に対して次々と子供たちが、「いや僕はこう思うねん、私はこうです」というふうな発言が繋がっていく。

子供たちが考えて、自分の意見を考えて発表して、また他の子はそれを聞いて自分の考えをまとめて発表してというふうに次々つながるような授業を僕はぜひそういう授業したいなと思って、授業のつくりの初歩的なものだけでも、そういうものを追求してきたと思いますね。ぜひそういう指導もしていただけたらなと思います。この前ちょっと見せていただいた中では。一問一答というような形が多かったかなあというようなのが私の感想でした。

あるいは班学習という一つのやり方があります。いくつかの班に分けて班で考えて話し合い、意見や考えをまとめ上げて、深めていく。またそれを全体の中で発表して、みんながまたそれを基に考えていく。そういう授業なども一つの手だと思います。北中ではね、班学習という言葉もちょっと発表の中には入っていましたが、授業ではちょっと見られなかったもので、そういう授業の工夫改善なんかも必要だと思います。

こういったことをやっていかないと、つまり授業を変えないと、今の一問一答のやり方を変えていかないといつまでたってもこの問1から問3の設問に対して子供たちが、僕は「当てはまる」という答えにならないだろうと思います。ぜひ先生と子どもがより良い授業をつくるために一緒になって、こどもと先生が一緒になって授業を作ってほしいと。そういう授業づくりを指導主事の先生が、国や府の施策の指導することもとても大事だけでも、それに合わせてね、授業づくりという、そういう中身も指導されたらどうかと。そう

ということがこのアンケート調査の結果を良くしていくのじゃないかなと、そんなふうに思いました。以上です。

石田次長： ありがとうございます。

新子教育長： ありがとうございます。学力向上の委員会等でですね、今後のICTの活用というところも含めて、山崎委員から今頂戴したご意見を参考にしながら考えていただくということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

石田次長： 承知いたしました。

新子教育長： 他にご意見等はございますか。

田中委員： 理科と社会はA問題B問題があつて、前もお聞きしたかもしれませんが、Aが知識を問う、Bが思考を問うという形でしょうか。

石田次長： そうではありません。試験範囲の問題でして、学校によって進度も違ひますし、順番も違ひるのでそれぞれに合つた方を学校で選択しております。

田中委員： わかりました。

新子教育長： 他にございますでしょうか。

委員全員： なし。

新子教育長： それでは、議案第4号については、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： それでは、議案第4号令和3年度中学生チャレンジテスト（1，2年生）の結果の公表内容については原案どおり承認することといたします。次に議案第5号について引き続き石田次長より説明をお願いします。

石田次長： 議案第5号「令和3年度かしわらっ子はぐくみテストの結果の公表内容について」指導課よりご説明申し上げます。別添の冊子をご覧ください。まず、表紙をめくっていただいて1ページには、例年どおり調査の目的と本年度の実施概要を掲載しております。

1. 目的につきましては、テストの実施要項を一般の方にも伝わりやすいように書き換えているのですが、3つ目の●につきましては、これでもやや分かりにくいという意見が市教委内でも出ましたので、「これらの取組みをとおして、学力向上に向けての継続的なPDCAサイクルを確立する」というように変更いたします。なお、対象学年は昨年度より3年生から6年生にしております。

2 ページからは具体的な結果になります。まず本年度の市全体の結果です。毎年申し上げますが、ここで比較する「全国」といひますのは、業者によるモニター実施校と、同時期に実施しました学校の集合体という意味であり、全国全ての小学校という意味ではないことをご承知おきください。国語の平均正答率は5年生と6年生は全国を上回りましたが、3年生と4年生は下回りました。算数についても同じく5年生と6年生は全国を上回り、3年生と4年生は下回っております。

3 ページからは同一児童集団の成長についてです。このように同じ児童集団について経年変化を見ることができることが、このテストを実施する大きな意義だと考えております。まず国語ですが、3年生は2年生時には実施しておりませんので、1年生時と比較しますと、下降しております。4年生は、昨年度は全国を超えていましたが、本年度は少し下回

っております。5年生は過去4年間順調に伸びており、6年生につきましては、昨年より伸びて全国を超えました。4ページは算数になります。3年生は全国より低いながらも、1年生時よりは伸びており、4年生は昨年ほぼ全国と同じ値でしたが、本年度は少し下降しております。5年生は昨年よりやや下降しましたが、3年続けて全国を上回っており、6年生は順調に伸びていると言えます。

次の5ページは本市が重点目標としてきました「書く力の育成」の観点で見た6年間の検証です。まず国語における「書くこと」の領域の標準スコアですが、昨年度よりやや上昇が見られますが、全国には及んでいません。条件付き作文無解答率の推移については、昨年より下がり、一昨年度に近い値まで戻っております。「記述式」問題における標準スコアの推移はこの3年間緩やかに下降しているのが気になるところです。同じく「記述式」問題における同一集団の推移につきましては、教科の平均正答率と同様に、3年生と4年生に加え5年生が下降しており、特に算数の下がり方は大きいものでした。そのため、中央右にある分析の文章も、下から3行を「算数でも6年生以外は下降しており、特に算数に求められる思考・判断・表現等の記述に課題があるととらえている」と変更いたします。次のページからは各学年及び教科ごとの結果について見ていきます。なお、各ページには課題の見られた設問を載せておりますが、調査問題についてのホームページによる公表は、業者テストである故、著作権の関係で掲載できませんので、実際の公表時には、どのような課題があったのかを文章表記にすることになりますことをご了承ください。では3年生の国語から順番に説明いたします。

6ページは3年生の国語です。正答率は全国より5.2%下回っています。分類も全て下回っており、グラフで見ましてもひと回り小さいことが分かります。下の解説文の下から2行目の部分が、「効果的である」となっており、他のページでも同様の表現が見られますが、中学校チャレンジテストの解説文に合わせて「必要である」というような表現に変更いたします。7ページは算数です。正答率は全国をやや下回っています。「測定」の領域が最も全国との差が大きく、昨年度も同じ傾向がございました。課題の見られた設問についてですが、この問題は、ふれあい体験会を11時半までに終わらせるには、遅くとも何時何分までに始めればよいかを問うもので、この問題に正答するには、体験には合計何分必要なかを計算し、「遅くとも」の意味を理解した上で、終了時間から体験時間を引く計算をしなくてはなりません。本市の正答率が26.4%ということは、約4分の1の児童しか正答できていないということになります。問題を読み込み正しく理解し、情報を整理しながら順序よく考える力の育成が必要だと思われます。あと、一番下の解説文の最終行に、「正答率が4年算数の中で」とありますが、「3年算数」の間違いですので、修正いたします。8ページは4年生の国語です。正答率は全国を3.3%下回っています。が、「我が国の言語文化に関する事項」の領域が全国を上回りました。「書くこと」の領域が最も全国との開きが大きく、10.1%下回っています。

9ページは算数になります。正答率は全国を3.9%下回っています。「図形」の領域が最も全国との開きが大きく、8.6%下回りました。課題の見られた設問は、その「図形」に関するもので、相手に「ひし形」という図形がイメージできるように問題のヒントを出

すというものになります。この問題に正答するためには、ひし形を構成する要素である辺の長さや角の大きさ、その位置関係を理解した上で、性質から図形を捉えるという逆の発送をし、更にそれを言語化する力が求められます。正答率は約20%ということは、5人に一人しか正答できていないことであり、授業において、子どもたちが図形の性質を言葉で説明するような活動を積み上げる必要があると思われま

す。10ページは5年生の国語です。正答率は全国を上回りました。「情報の扱い方に関する事項」が0.2%下回りましたが、それ以外の区分は全て全国を超えています。他では課題の見えた「思考・判断・表現」の観点や「記述式」の問題形式においても全国を上回っているのは良い傾向です。11ページは算数です。正答率は全国2.3%上回っており、「評価の観点」の全てにおいても全国を上回っています。国語と同様に「思考・判断・表現」の観点が全国に比べて良好な結果でした。12ページは6年生の国語になります。正答率は全国を2.1%上回り、「情報の扱い方に関する事項」以外は全ての区分で全国を上回りました。課題の見られた問題はその「情報の扱い方に関する事項」からで、これは、パソコンなどの長時間の利用によってものが見えにくくなる理由を、2つの資料を基に説明するというものになります。本市の誤答の多くは、資料の片方からしか情報を引用できていなかったものでありました。授業において、複数の資料や文献から目的に応じて中心となる語や文を見つけ、それを要約したり、誰かに説明するような活動を積み重ねる必要があると思われま

す。13ページは算数です。正答率は全国を3%上回り、全ての分類で全国の正答率を上回りました。特に「変化と関係」の領域や「記述式」の問題形式に良好な結果が見えます。14ページからはアンケート結果になります。今年から分析の仕方を変えております。まず「学校の授業時間以外で、平日は1日どれくらい勉強しますか」という問いですが、以前からの課題でありますように、「まったくしない」や30分以下の児童が全国に比べて多く、学習時間のめやすである学年×10分に達していないことが分かります。次の「勉強するときは、自分で計画を立てていますか」という問いについては、学力調査の正答率を4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けて分析してみました。結果として、正答率が高い児童ほど、自分で計画して勉強していることが明らかになっています。15ページの「テストで間違えた問題は、後でやり直していますか」という問いについても同様に、どの学年においても、正答率の高い児童ほどいつもやり直しをしていることがよくわかります。テスト返却する際に意欲的にやり直すことができるような指示の工夫や、「間違いが力をつけるチャンス」と児童に意識づけをしていくことが必要だと思われま

す。最後の16ページにはまとめとして、今回の結果を受けての「教育委員会としての今後の取組み」「学校における取組み」そして「家庭にお願いすること」を記載しました。「教育委員会としての取組み」と「学校における今後の取組み」につきましては、先程報告「中学生チャレンジテスト」の同ページと同じように変更いたします。説明は以上でございます。ご審議宜しく願いいたします。

新子教育長： はぐくみテスト3年生から6年生の結果でございます。3、4年生が国語算数ともに下回った。5、6年生は逆でございますが、柏原市の平均ということもございま

すし、学校別にいきますとかなり高い学校もございまして、結果として、いつも固定されているということではないんですけれども、年によっても、学年のばらつきというのはあるんですけど、やや落ち着いてきたところは落ち着いてきたかなというふうなところもございまして、やっぱり教職というか先生方の異動等でやっぱり個の力と言いますか、そういうところも見られる傾向もあるのではないかなと。この話題というのは、実は府の教育長協議会の中でもテストのあり方等も含めて、話題に上がっているのですが、今のような感じでどこの市も年によってばらつきもあるし、やっぱり学校差も出てくるような柏原と同じような感じだなというふうには感じておりますが、またこれも引き続き学力向上の方でもね、お願いしたいと思います。ご意見等ございましたら、お願いいたします。

近藤委員： 授業の日程などが厳しい中、はぐくみテストを例年通りしてもらってありがたいなと思っています。小学生にとっては、自分の実力がどれぐらいなのかを知る貴重な機会ですし、家に持って帰った結果を見ながら、たくさんあるグラフの見方を親に聞いたりして、そういった勉強にもなっているなと思っています。来年度も実施してもらえたらありがたいなと思います。

新子教育長： またしっかりと取り組んでまいります。他にございますか。

西村委員： 感想という形になりますけども、3、4年の勉強が難しくなってきた5年6年の思考できる学年になってきてすごく身に付いてきているのかなという印象です。特にこの3年生の算数のふれあい体験会の時間の計算で、実はいろんなお母さんから「日常生活でこれ子供ができないんです。」と伺います。この時間に出るにはこのタスクをしないといけないから何分前からすればいいのか。これどうやって教えたらいいのか。テストでも難しいし、結局日常生活でも難しいことなんだなと実感しました。生活に結び付けて教えてあげること、もしかしたら学力としてより分かり易いとか、勉強する意味とか、そういうことに繋がるのかなと思って、すごく興味深く聞いていました。そういう勉強ができたらいいかと思います。

新子教育長： 貴重なご意見ありがとうございます。

石田次長： 問題を日常生活とどれだけ繋がられるかということが学力の基本だと思いますし、昨今の問題もできるだけ実生活に合った形の問題がやっぱり出されているような傾向にあると思いますので、問題をただ解くだけでなく、やっぱり日常生活で同じような困りがあつたときに、どう解決すればいいのかというのは増やせるよう指導してまいります。

新子教育長： 他にございますでしょうか。

委員全員： なし

新子教育長： それでは、議案第5号については、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： それでは、議案第5号令和3年度かしわらっ子はぐくみテストの結果の公表

内容については原案どおり承認することといたします。本日の議事案件は以上です。

【暫時休憩】

【再開】

(適正規模適正配置審議会の答申について学務課より報告)

以上で、第3回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員